

人間保護…？

目黒修治

日本の国は比較的温暖で、降水量も多い。したがって、植物の生育には適していると言えよう。その日本で、新潟でなぜ植物保護なのか・・・？ 表土を削り取った裸地でも、1年後には雑草が生える。多少自然を破壊したって、ほおっておけばまたもとに戻るだろう・・・。何も特別に保護しなくたって・・・と、そう思っている人が多いのではないだろうか。でもそれはたぶん違うと思う。植物保護の究極の目的は植物を保護することではない。植物を保護するという行動を通じて人間の生存を守ることが最終的な目的ではあるまいか。もしそうだとするならば、私たちの生存を脅かす足元の状況をこそ点検してみる必要があると言える。

例えば農薬・・・

あなたは知っているだろうか？

この狭い日本で、1年間に60万トンもの農薬が撒かれていることを。世界一の農薬汚染国日本。田んぼで、ゴルフ場で、畑で、果樹園で、ハウス園芸で撒かれた農薬は水に溶けて、風に乗って、ごはんの中に、果物や野菜に付着して私たちの体の中に侵入する。必ず。そして蓄積されてゆくだろう。

あなたは知っているだろうか？

テレビで世界の注目を集めたベトナムの双子児・・・ベトちゃんどクちゃんが実は農薬散布（アメリカ軍の枯葉作戦に使用されたダイオキシン）の結果だと言うことを。農薬の中には催奇性や発ガン性の高いものもあるし、効果や副作用のよく分かっていないものも多いらしい。ましてや、2種以上の農薬が混ぜ合わされた時、どのような反応が生ずるのかまったく分かっていないと言ってよいだろう。あまりにも分からないことが多すぎる。

あなたは知っているだろうか？

1年間に、梨で15回、桃で13回もの農薬散布を行っていることを。しかし、これは出荷用であって、自家用は散布回数がずっと少ないと言う。おろかな消費者のせいなのか、それとも生産農家の意識の問題なのか。虫が食べられないほど農薬にまみれたものを、人間が食べてほんとに大丈夫なのだろうか。

あなたは知っているだろうか？

淡路島のモンキーセンターでは20年前からサルの子ザルを初め、今までに320頭の子ザルが生まれ、そのうち、70頭が奇形だということを。約20%の奇形率。なんとも背中が寒くなるような、異常な数である。使われている餌は、小麦・大豆・みかん・りんごなど。人間と同じものを食べているサルに奇形が発生している

と言う。特に、小麦は9割までが輸入もので、マラソンやスミチオンに汚染されている。今、私たちの家庭の食卓に、1日3回並べられる食品のうち、農薬に全く汚染されていないものを探すことは、ほとんど不可能に近い。それほど私たちの食卓は、農薬に占領されてしまっている！

スーパーに並べられた、色艶のよい、形のそろった野菜や果物を見て、あなたは不自然だとは思わないだろうか。自然は工場ではない！

サルの次は、たぶん私たち人間の番だろう。それが自然な順序だと思う。

例えば原子力発電所・・・

あなたは知っているだろうか？

広島・長崎以外に、核実験を除いて、これまでに3回の核爆発があったことを。

1回目は1957年6月。ソ連のウラル山脈東側にあるキシチュム軍事核施設で排出されていた廃棄物が爆発したもの。30年後の今日でもこのあたりは閉鎖された汚染区域になっている。

2回目は1979年3月。アメリカのスリーマイル島原発。原子炉が空焚きになり、燃料棒が溶けて、チェイナシンドロームの寸前まで行った事故。9年前の出来事だが今でも原子炉は必死でコントロールしなければならず、内部は手付かずのまま。回りの住民のガン発生率は、他の地域の7～8倍以上。

3回目は1986年4月26日。小学生も知っているソ連のチェルノブイリ原発。核反応の制御に失敗した『核暴走』事故。ウクライナ地方とヨーロッパ全域に死の灰が大量に降り、5月3日には8000kmもはなれた日本にもたどりついた。今後、ソ連とヨーロッパで一体何万人の人が発病し、苦しみながら死んで行くのか。だれも分からない。

放射線による発病、死亡はその因果関係を医学的に立証することが極めて難しいと言われている。

あなたは知っているだろうか？

原子力発電所が運転されると、多量に放射能を含んだ死の灰（核廃棄物）が確実に生産されることを。そして、その核廃棄物を処理する技術が世界中のどこの国にも確立されていないことを。ましてや、原発先進国であるイギリス、フランスが再処理から撤退を始めたことを！

あなたは知っているだろうか？

たった1基の爆発で日本の国が終りになるような、そんな原発が現在の日本に、なんと38基も運転されてお